

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902454		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム「ファミリー」		
所在地	北海道旭川市永山1条11丁目2-38 電話0166-48-8100		
自己評価作成日	平成23年9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年に一度、大々的に夏祭りを開催し、地域に住む方々と入居者の方が、交流出来る場を設けている。又、隣接する子育て支援センターの子ども達と行事を共に行う事で、触れ合う機会を増やしている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902454&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<本人を共に支えあう家族との関係づくり>
 入居時に家族等の来訪する機会を増やすなどの呼びかけや、来訪時には日常生活の様子や健康状態、家族の困りごとや要望等話し合う機会を設け、本人との絆を断ち切らない取り組みをしている。また、知人・友人、町内の人たちが訪問し易い支援に努め、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に取り組んでいる。

<地域との交流促進>
 子育て支援センターを併設し、子供達とその家族との交流やヨガ教室、絵画教室等地域に根ざした活動が継続的に行われている。また、子どもたちと一緒に餅つきやクリスマスで楽しんだり、地元の人々に参加を呼びかけて「夏祭り」を開催するなど日常生活を通じて交流促進に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者様一人ひとりに応じたサービスに対応できるよう職員全員で話し合いを設け、日々取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、理念について話し合いの機会を設け、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩、町内会との繋がりを維持している。又、ホーム主催の「夏祭り」では町内会の人々に参加を呼び掛け、交流に取り組んでいる。	地域の高齢者の介護・健康相談の実施、福祉専門学校生や高校生の実習の受け入れ等ホームの持つ機能の地域への還元に取り組み、日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の介護、健康相談等気軽に立ち寄って頂けるよう、運営推進会議等での話し合いが持たれている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者への働きかけにより、二ヶ月に一度会議を開き、参加者の方々より意見を頂き、日々のサービス向上への参考としている。	家族への参加の呼びかけや市担当者の助言等で地域との交流や事業所主催の行事などについて具体的に話し合いが行われ、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者及び地域包括センターとの連携、研修等にも積極的に参加を努めている。	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性を認識し、日常業務・運営推進会議等を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者が中心となり、職員会議にて研修会を開き、身体拘束ゼロ作戦の実践に取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止委員会で、管理者及び職員の認識の共有に取り組んでいる。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、虐待が身体への暴力のみならず、言葉においても傷つけてしまう事等、心理的な事柄なども含め知識を得たり、意見交換し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の暮らしの中で、必要性があれば家族との相談が出来るように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要事項等の説明は、時間をかけ行っている。又、不安・疑問にその都度対応し、理解を得るよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事柄でも、気軽に管理者・職員に話をして下さる。苦情については、速やかな対応を行っている。意見については、職員会議に取り上げ運営に反映させている。	入居時に家族等の来訪する機会を増やすなどの呼びかけや、来訪時には日常生活の様子や健康状態、家族の困りごとや要望等話し合う機会を設け、本人との絆を断ち切らない取り組みをしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングの中から意見・提案を聞き、運営に反映するように心掛けている。	日常業務やミーティングを通じて、職員の意見や要望、提案を聞くようその機会を設け、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じて、また環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の自主参加、確保の提供を進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会を通して取り組みを予定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前には、必ずご本人と直接会い、身心生活状況の把握や不安等をお聴きし、安心して入居していただくよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前には、何度か話し合いの場を設け、ご家族の要望等を理解し、こちらの対応可能な有無をしっかりと伝え、より良い関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時のニーズをしっかりと見極め、外部機関とも連携を図りながら、対応するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを尊重し、生活や料理の知恵を学んだり、散歩やレクリエーションを通して一緒に楽しみ、より良い関係作りを築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、ご本人の生活や健康状況などをお手紙で月1回報告している。又、出来るだけ来訪していただくためにも身の回り品の購入や相談を行い、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年お付き合いのある友人との関係が途切れることがないよう家族の了解を得て、こちらから電話連絡を行い関係保持を努めている。また、友人からの電話や訪問、外出もあり、良い関係を続けている。	知人・友人、町内の人たちが訪問し易い支援に努め、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人では関係作りが難しい利用者の方は、職員が間に入り、会話や活動の輪に入ることが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例はないが、必要に応じて取り組んでいきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にご本人と面談を持ち、希望や要望、悩みの把握に努めている。困難時には、ご家族に協力を求めている。	本人の希望や家族等からの要望に耳を傾け、サービス提供に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前よりご本人・ご家族よりお話を聴き、必要時には、これまでの利用事務所担当者との連携も取っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を見守り、アセスメントに細かく記入し、情報を共有するように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から定期的にケアに対する意向を聞く場も設けている。また、医療機関の医師や全職員からの意見を聞き、介護計画に反映するように努めている。	本人、家族の意見や要望、意向を把握し、介護計画に反映するよう努めている。また、サービス担当者会議を通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別アセスメント用紙に沿って、毎日介護記録の記入を行っている。変化が見られた際には、早急にカンファレンスを開き、見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族の方を含め、全家族に月1回写真付きのお手紙を発送している。また、買い物代行も必要に応じて行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を2か月に1度実施し、町内の民生委員や市役所の職員、ご家族に参加してもらい、ホームの内容を理解して頂いている。また、行事では地域の方とのふれあいを重視し、ボランティアの協力も得ている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の入居者は、かかりつけ医師の往診を週に1度受けている。専門医については、主治医から紹介状をもらい、その都度対応している。また、ご本人、ご家族から希望の医療機関があった場合には、その旨対応している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっていて、往診や常勤の看護師の連携で適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日々の健康管理を行っている。夜間も看護師と連絡をとれる体制が出来てる。又、協力医療機関とも相談や協力を得られている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関や家族と情報交換を充分に行い、退院計画を具体的に立案し、状態の安定を見ながら支援に努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、医療・介護・家族と連携し、職員間で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い事業所ができることを十分に家族に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変に備えて、看護師から職員に対応が伝えられている。又、日々の状態の変化に合わせて看護師からの指示が職員には伝えられている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に全ての職員が速やかに対応が出来るように火災避難訓練が年2回実施されている。又、マニュアルや緊急連絡網はわかりやすい個所に掲示されている。消火設備も定期的に点検が行われている。	緊急時に対応した年2回の避難訓練実施やスプリンクラー、報知器等の設置の定期点検も行われている。	今後は、火災以外の地震等の天災に際しての緊急時の体制を検討しているので、その実践に期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会や会議等で入居者に対する声掛けや対応について、職員全員で見直しを行っている。また接遇に関する研修に積極的に参加し、研修内容を報告し、向上に努めている。	身体拘束廃止委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉、不適切なケアがないように管理者、職員間で共有している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人の希望や思いを汲み取るよう、会話を多く持つよう働きかけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日曜日には余暇時間を多く持ち、入居者のゆとりのある時間を設けている。また、職員との対話の時間も多くもつように努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら服装や髪形等を選択し、必要に応じて職員が支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみをもてるよう畑で野菜を栽培し、食事に提供している。又、入居者の誕生日には、ご本人の希望を聞き食事に提供している。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの力を活かしながら畑での野菜の収穫や調理、食事の準備等希望にそって支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な水分・食事摂取量を記録し、水分制限のある入居者には、1日の摂取量を決め提供している。食事摂取量の確保が難しい入居者には、医療機関を相談し対応している。嘔下状態により、とろみ剤を使用し、食事・水分の摂取を行い、誤嚥にも注意を払っている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施、自立度に応じた歯磨きや見守り支援に努めている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握をし、時間を見ながら、トイレへの声掛けや誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように自立に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れ、又、医師の指示のもと下剤の調整を行っている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが入居者の希望や体調不良時には、臨機応変に対応している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて、入浴が楽しめるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に横になることが多くならないよう、余暇時にはレクリエーション等、頭や身体を動かし、夜間の安眠に繋げている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルし、全職員がいつでも目を通すことが出来るようにしている。又、内服薬が変更になった場合には、申し送りを徹底し誤薬がないように努めている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションを充実し、毎日の楽しみが持てるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者の体調を考慮し、晴天時には外気浴を行っている。また、季節に応じて、花見やいちご狩り等の季節を感じられる行事を計画している。</p>	<p>その日の体調の変化や希望にそって、散歩や買い物、ホーム主催の夏祭りや敬老会参加、畑作業や紅葉見物等戸外に出かけられるように支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者の能力に応じて、ご家族と相談し、金銭の所持や使用を支援している。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族の了承を得て、20時まで自由に電話の利用を行っている。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>談話室には、行事の写真やカレンダーを掲示し、楽しく過ごせるように工夫している。また、観葉植物等を置き、成長の様子を見守ってもらえるようにしている。</p>	<p>地熱を利用した暖房で暖かく、リビングには、一人になったり談笑できるように椅子やソファが置かれている。季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示で季節感や生活感が出るように工夫し、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間では、居心地の良い時間を過ごせるようテレビや本を置き、自由に過ごせるようにしている。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から使い慣れた物を持参して頂き、安心感を持てるように努めている。また、家族の写真を飾り、一人ひとりの思いが伝わる作りになっている。</p>	<p>居室は、押入れや洗面台が用意され、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共用箇所には、大きく名称を掲示し、誰でもわかりやすくしている。また、一人ひとりの状態を把握し、出来るだけ自立した生活を送れるように支援している。</p>			

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合うよう対応するも感情が入ると対応が遅れることがある。	利用者同士の交友関係を円滑にする。	利用者の会話の中には、常に傍に職員がいるような環境作りに努める。	12か月
2	21	入居者の認知区分が1～5と幅広く、レクリエーションや行事を一緒に行うことが難しいことがある。また、日常生活や会話についても理解が得られないことがある。	利用者同士がお互いを尊重し合える環境を作る。	問題が発生した際には、病状を理解していただけるような声を掛けていく。 少人数で行なえる行事やレクリエーションを計画する。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。